松本民芸家具

二百年の語り部

小さな芽生え　信州の深山
若木は大自然に抱かれながら
幾多の風雪と星霜を越えて
やがて雄々しき大樹に育つ

樹(き)は材(あらき)となり　人の手を待つ
人は木を慈しみ　新しい命を吹き込む
木は家具となり　人々を包容する
それは朴訥とした　時の語り部

トレッスル卓子Tタイプ　W136.5×D80×H71　　#509C型ウィンザーチェア　W59×S·H42×H96.5　　M型皿棚　W152×D42×H183
F型キャビネット　W80×D36.4×H80　　A型フロアスタンド　W46×D46×H173.5　　C型ワゴン　W66×D40×H79（抽斗付）

SL型チェア　W69.5×S·H38×H71.5（1人掛）　W165×S·H38×H71.5（3人掛）　SL型オットマン　W57×D50×S·H36
※上記着脱式本革シート付
SL型センターテーブル　W120×D56×H42.5　H型朝鮮棚　W127×D42.5×H110.5
八角木製フロアースタンド　W67×D67×H172.5

造形物としての家具が持つ三つの要素。かたち。いろ。質感──。
それらが複雑に、あるいは微妙に調和しあって、一つの存在感がかもし出され、
暮らしに落ち着きや彩りを添えていきます。家具は静かに空間を演出します。

＃63型ラダーバックチェア
W44.5×S·H41×H83

＃511型ラッシアームチェア
W56×S·H41×H82

百年かけて育った木が、次の百年を家具として過ごす。
すなわち家具づくりとは、木の生命の表現であり、
森の息吹きの再生であると、私たちは考えます。

木の持つくせと味とを知り尽くし、
その肌合いや性質を最大限に生かしながら、

W43×S·H42×H91

#44A型ウィンザーチェア
W57.5×S·H42.5×H110

大キャプテンチェア　W63.5×S·H42.5×H77

アーチバックアームチェア
W62×S·H42.5×H106

ホイールバックウィンザーチェア
W58×S·H43×H101

ペンシルバニアウィンザーチェア
W63×S·H42×H106

理にかなった美しい造形を生み出してゆく技術。
確かな伝統の上にこそある、時代をこえた新しさ。
つくり手と使う人が家具を介して結びあう信頼。

それらすべてが満たされたとき、
松本民芸家具の玄趣が紡ぎだされ、
家具は人に語りかけ、人を包み込むのでしょう。

＃304Ｆ型ロッキングチェア　W68.5×S·H38×H110

D型フットレスト
W36.4×D26.5×H15.2

＃610D型ロッキングチェア
W53×S·H35×H110

T型食卓
W160.5×D85×H71

TM型ドロップリーフ卓
W150×D85×H71

M型楕円バタフライ卓Ⅰ　W150×D90×H70　＃72リーチ型チェア

FT型ローボード（TV対応）　W160×D47.5×H60
※写真のTVは42インチです。

ドランカーズチェア　W71×S・H44×H99（漆仕上）

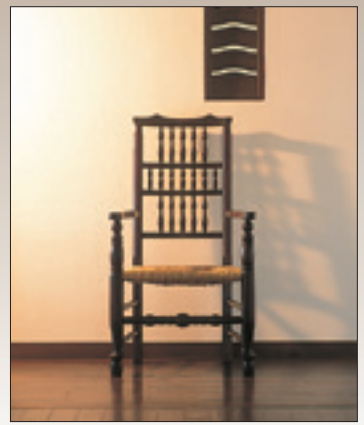
安川式スピンドルアームチェア
W57.6×S・H42.5×H90.5

T型食器棚
W115 ×D40×H150
＃68型茶卓Ⅱ
W63.5×D42.5×H48.5
＃95リーチC型アームチェア
W55×S・H43×H85

MB型チェア
W61×S・H42.5×H85
※座面本革張り

人が集う　ベンチで笑顔を分かち合う
美しく気品に満ちたシルエットが
至上の温かさに彩られるその時
――家具はもう一人の家族になる

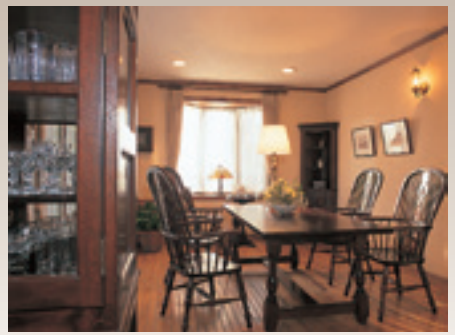
#77型曲肘イス（布張）
W63×S・H36×H67（1人掛）写真
W115 ×S・H36×H67（2人掛）
W162 ×S・H36×H67（3人掛）写真
※ガマ座仕様もあります。（S・H34）
※布別色ございます。



#48型スピンドルアームチェア
W61×S・H42×H110

#91型キャプテンチェア（2人掛）
W119×S・H41×H73

アローバックベンチ　W160 ×S・H43.5×H91



大島英信邸（長野県富士見町）現役を退いたご夫婦が八ヶ岳の麓に居を新築。おだやかな日々に松本民芸家具が色を添えます。

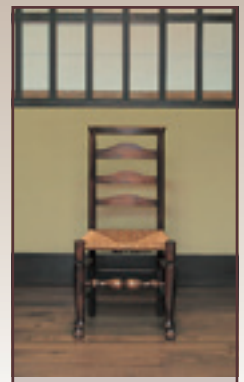
近喰三郎邸（長野県松本市）家族の成長に合わせて家具を買い揃えてきたご主人。「松本民芸家具の似合う家にしたい」と新築されました。

徳運寺（長野県松本市）敷地内に再生した民家に松本民芸家具を配し、心やすらげる現代人のヒーリングスペースに供しています。

クチュールもちづき（長野県松本市）オートクチュールの店にふさわしい品格を松本民芸家具が演出します。

ざくろＴＢＳ店（東京都港区）料理、サービス、雰囲気ともに一流のこの店で、松本民芸家具が調度品と相まってお店の格調をかもし出しています。

安曇総合病院（長野県池田町）「心の病の人にこそ本物の家具を」との考えから、精神科病棟のロビーや食堂に松本民芸家具が使われています。



全国で息づく松本民芸家具

品格を重んじるレストラン。芸術と向き合う美術館。無垢な子どもたちをあずかり育てる幼稚園。地元松本はもとより全国各地の多種多様な場面で愛される松本民芸家具。本来暮らしの中で家具が持つやわらかな存在感や安心感、人の生活のぬくもりが、そこには生きています。

つくり手が丹念に息を吹き込み、
使う人によって美しく育てあげられる。
時を重ねれば重ねるほどに深まってゆく。
それがほんものの家具の味わい。

50年 使いこまれた松本民芸家具初期の#44A型ウィンザーチェア

喫茶まるも（長野県松本市）戦後まもなくの開店当初の松本民芸家具が現在も使われています。「お客様が家具を美しく育てて下さいました」と店主。

日本民芸館（東京都目黒区駒場）民芸の集大成ともいえるこの施設の各展示室には松本民芸家具が配されています。

碌山美術館（長野県安曇野市）創設時より松本民芸家具の彫刻台、本棚、ベンチなどを採用。芸術との語らいの時を見つめています。

三島恵泉幼稚園（静岡県三島市）「本物の家具に子供のころからふれていてほしい」との思いから松本民芸家具を使用。「ものを大切にする気持ちが育っています」。

レストラン鯛萬（長野県松本市）「調度品もレストランの満足の一つ」との言葉どおり、店内全室が松本民芸家具で統一され、欧風の内外装と絶妙の調和をかもし出しています。

株式会社 **中央民芸**
〒390-0811 長野県松本市中央4-7-5
TEL 0263-32-1326
FAX 0263-32-3802

スピンドルバックベンチ　W170×S·H37.5×H85